

会 報

◇史学会総会

五月三十日(土)、C棟一〇二教室において、第十回奈良大学史学会総会が行われた。一九九一年度の事業・決算・会計監査報告が行われ、次いで一九九二年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

一九九二年度の役員は次のとおり。

▽会長

堀内一徳

▽副会長

松山 宏

▽教員委員

(監査)

菅野 正、水野柳太郎

(編集)

森田 憲司

(庶務・会計)

守山 記生

(庶務・雑誌交換)

森田 憲司

▽学生委員

(代表) 奥田雅也(副代表) 川本哲也(渉外) 京谷裕彰
(書記・会計) 堀有希、牧田留美、万代恵、永井愛子、

渡辺美鶴(総務) 米田武弘、松平啓、菅野谷俊英、荒川大、朝田要、上木輝康、片村真知子、佐竹健作、佐野山佳美、田中留美、橋本香織、藤井義清、蒔田成紀(編集)
田中宏明、妹尾真二、宮田博和、石垣信一、松島逸彦、岩田和郷、内海新、萱沼愛子、佐藤晶子、田上晃、谷淳子、橋本忍、山下美樹、山本陽子、渡辺直子(交流) 永井隆之、沢井正平、伊藤奈保子、上井谷修、長村美奈子、佐々木美佳、佐藤智久、田中里佳、堀内陽子、三宅利枝、山口定則、湯口雅文、綿引博(広報) 沢田潤、水野由規、森分一孝、塗師村友恵、原英史、前田周子、森美恵、山本雅直、吉田直美

◇特別講義

五月三十日(土)、史学会総会にひき続き、奈良大学史学科・史学会共催の特別講義が行われた。講師・演題は次のとおりである。

大阪外国語大学教授 脇田晴子氏

「日本中世の家と女性」

シルクロード研究者 藤本 優氏

「イラク紀行」

◇現地見学会

本年度の春期現地見学会では、六月十四日(日)に斑鳩周辺を散策した。法隆寺の南大門前に集合し、法隆寺の諸伽藍を参観した後、法輪寺で寺の由来などの説明をうかがい、最後に法起寺を見学した。参加者は四十名をこえ、大盛況のうちに幕を閉じた。

また、秋期は、十一月二十二日(日)に東大寺にて行った。水野柳太郎教授の案内で、ふだん人気の少ない東塔跡・講堂跡・食堂跡などを歩き、東大寺にまつわる興味深い話を聞くことができた。

本年度の現地見学会は、春期・秋期ともに、他学科・他大学からも多数の参加者を得ることができ、史学会の活動を更に発展させる有意義な見学会であった。

◇定期講習会

史学科にふさわしい内容をもったビデオ(映画・ドキュメンタリー等)を上映し、それに関係する資料を集めて討論会を行なった。本年度は、六月二十日(土)に『ヘンリー五世』を、十月十七日(土)に『ロビンフッド』をテーマに開催した。両回とも多数の参加者を迎えて好評であった。

◇卒論中間報告会

十一月十四日(土)、二十一日(土)の二週にわたって

第九回卒論中間報告会がC棟二〇三教室において行われた。多数の学生が参加し、熱心に報告を聴いていた。また、質疑応答も活発であった。

本年度の報告者と論題は次のとおりである。

○十一月十四日

米田 武弘「卑賤視された天狗―中世における貴族の天狗観―」

妹尾 真二「清末の刑法改革について」

中村 知子「西欧中世修道院の展開―その日常生活を中心として―」

逢坂 祐至「ファシズムについて」

竹内 真弓「古代エジプト対外史」

○十一月二十一日

野村 優子「『年々留』に見る銭屋五兵衛の家業経営」

大木 彰「元代の駅伝制度について―通政院について―」

橋谷田昌代「国司制の成立について」

下出谷映美「アメリカ黒人奴隷の生活と解放」

◇「史学会会報」等の発行

史学会行事の案内など、史学会の活動の普及を目的とす

る「史学会会報」であるが、本年度は前・後期合わせて六回発行した。また、例年にひきつづき一年次生を対象にした小冊子「歴史学への扉」及び「講読紹介」を発行し、より充実した内容となった。

◇第五回史学科中国研修旅行

奈良大学文学部史学科では、二年ぶりに中国への研修旅行を行なった。引率は、菅野正・森田憲司の二教員で、一八名の学生諸君の参加をみた。日程は次の通り。

三月六日 上海を経て北京へ、北京泊。

三月七日 北京（万里の長城・十三陵・居庸関）

三月八日 北京（歴史博物館・雍和宮・首都博物館・天壇）

三月九日 北京（故宮博物院）から咸陽へ、咸陽泊。

三月一〇日 咸陽（永泰公主墓・乾陵・茂陵・霍去病墓・楊貴妃墓）から西安へ、西安泊。

三月一一日 西安（八仙庵・秦始皇陵兵馬俑坑・碑林・清真寺・城壁）

三月一二日 西安（大雁塔・陝西省歴史博物館・咸陽市博物館）から、上海へ

三月一三日 上海から蘇州（北寺塔・石刻博物館・拙政園・

戲劇博物館・民俗博物館）へ、蘇州泊。

三月一四日 蘇州（寒山寺・盤門・蘇州市博物館・市内の水路）から上海へ、上海泊。

三月一五日 上海（上海博物館・豫園・南京路）

三月一六日 上海から大阪へ。

なお、九三年春には、敦煌を中心とした第六回が計画されている。

◇会員動向

○明石岩雄氏（日本近代史担当）は、奈良大学教員海外研修制度により、一九九二年四月から、九三年三月までの予定で、中国江西省南昌市の江西大学において、研究に従事している。

○松山宏氏（日本中世史担当）は、八月中旬にメキシコへ旅行し、テオティワカンのピラミッド、マヤの壮麗な神殿と今も残る家屋、オルメカの巨石文化などを参観した。

○森田憲司氏（東洋前近代史担当）は、奈良大学雅楽研究会の河北省磁県蘭陵王墓前公演への同行、一九九二年北京国際図書展覧参観などをかねて、八月三〇日から九月一四日まで北京に滞在し、市内の史跡の参観、史料の収集を行なった。

平成三年度史学科卒業論文

〔日本史〕

「知太政官事」考

—太政官における知太政官事の役割—

八田 優子

施薬院についての一考察
蝦夷の来朝について
造東大寺司に関する一考察

—造東大寺司の廃止をめぐる—

長尾 芳子
浪岡 一
西田 俊輔

紫微中台に関する一考察

元正天皇即位詔について

藤原広嗣の乱の背景

—乱の要因の考察を中心に—

飯塚 尚孝

香川 格

門田 尚子

観察使について
惣管・鎮撫使について
位祿について
節度使について

—その崩壊過程について—

長谷川 正
藤田 祐亨
前川 健志
牧野 知幸
森 英之

古代の皇位継承に関する一考察

和気清麻呂考

古代の改賜姓に関する一考察

太宰府の防衛体制について

日本古代の即位儀について

—神祇令第十三条と大嘗祭の一考察—

渤海使について

諸蕃についての一考察

橘嘉智子とその周辺

女官における一考察

—叙位任官の記事から—

木下 幸一

小林 正樹

酒多 典子

佐藤 菊弘

鈴木 彩

遣唐使に関する一考察

—新羅・渤海との関係から—

山崎 佐織

いわゆる大同三年十月十九日格に関する一考察

吉岡 靖子

☆ ☆ ☆

鎌倉時代の三浦氏

室町時代初期の能役者世阿弥の前半生

—猿楽能の世界に見る人間像—

荒井 佳人

安藤さより

關 朝子

高野 和恵

丹野 由美

土屋 由貴

晩年の千利休

戦国期における戦術変化

石井 靖子

稲田 恭子

—信長の鉄砲使用を中心に—

後白河天皇から法皇へ

井上 尚美

蓮如と北陸の一向一揆

林 康樹

源平騒乱期における合戦の形態について

大木 佐紀

戦国時代の皇室経済の状況について

原口 勝

—治承・寿永の内乱を中心に—

元寇における国家意識

岡本 洋朗

南北朝・室町期の女性の相統権について

疋田 容子

中世後期の北伊勢の国人領主

笠井 賢治

—中世武家社会一般における、分割相統から単独相統への移行期の女性の相統権—

—関氏を中心として—

鎌倉末期における幕府権力について

金子 澄子

一遍上人の遊行について

日高真由美

中世の放火検断について

神山 直子

大友宗麟の目指した理想国

平嶋 祐子

—大和の寺領を中心として—

室町時代京都における賤民

小堀 雄一

—上洛にみる謙信の尊王崇禰—

三田 明子

—散所論と清目論—

応仁の乱と公家

坂口 弘貢

—法制下の百姓と逃散—

宮津 弘美

公家新制について

新聞 文子

南朝再興運動について

山本健一郎

—一二世紀の社会を法を通して見る—

豊臣秀吉の朝鮮出兵について

高木 信明

幕末政局における徳川慶勝と尾張藩

青山 宣之

—文禄の役における兵糧米調達を中心に—

中世末期における和泉国人の動向

田中 雅人

近世京都における町年寄と町自治について

姉川 裕一

中世後期における教育形態

谷崎真由美

近世前期の教訓物流行にみる庶民意識

安部 崇

—庶民勢力を中心として—

—庶民勢力を中心として—

—庶民勢力を中心として—

—庶民勢力を中心として—

巨島 三恵

高瀬川水運と沿岸の発展

大沼 秀美

江戸時代中期以降の捨子に関する一考察

村田佳壽子

近世日本の庶民文化と外国人の視座

小田原紀子

☆ ☆ ☆

—旅から見た日本—

伏見市制の意義について

磯谷 学

松江藩の殖産興業政策と専売制に関する考察

川上 昭一

広島発展と綿作の関係について

伊駒 直樹

天明浅間焼けを通してみる中期封建社会の構造的特質に

河原崎統基

明治維新期の民衆白書

磯野ゆり子

ついて

佐野 二葉

—慶応三年の「ええじゃないか」を中心として—

天誅組志士達の軌跡と周囲の反応に対する考察

柴崎 恭江

愛媛県における一九二〇年代の農民運動について

伊藤 直子

坂本龍馬にみる近代的統一構想と実践

高瀬 暁男

—南予地方における「明星ヶ丘」の役割について—

上野 征児

近世大坂都市圏の拡大と大坂町奉行所の都市政策

田畑麻貴子

—下津井軽便鉄道と彦崎を事例として—

江口真由美

近世今井の都市構造と生活

中村 洋介

—無産政党を中心に—

金子 和恵

上杉鷹山思想と米沢藩政の展開について

早川 知毅

—戦後における富山県を例にして—

木村 和代

三井家の商法と経営理念について

前田 秀人

第二次大坂市域拡張

—平野郷町の大坂市域編入について—

阪野 滋

—都市長崎との関係を中心に—

絵馬に見る近世民衆の生活と信仰について

村上 勇

—自由民権運動の激化事件期における地租改正の動き

佐藤 寿信

近世都市の発展と食文化

前野 弥生

明治前期における天皇地方巡幸の役割

自由民権運動の激化事件期における地租改正の動き

近世都市における防火と消防をめぐる

村上 勇

自由民権運動の激化事件期における地租改正の動き

佐藤 寿信

—大坂の防火と消防対策—

大和の分置県請願運動

山国隊についての一考察

明治における海運政策

—造船奨励法を中心に—

自由民権運動期における高知の中等教育

明治期におけるお雇い外国人について

東京裁判についての一考察

尾張地方における織物業

農村経済更生運動の展開とその役割

—奈良県磐城村を事例として—

織物業における技術進歩

滋賀（大津）県における地方民会について

米占領軍による新聞検閲

三菱、川崎争議における権利問題について

明治期の紡績工業の発達を中心に

—大阪紡績株式会社について—

栃木県における自由民権運動

—初期民権期において—

日露戦争後の戦後経営について

—日比谷焼打事件についての一考察—

篠永 尚美

鈴木 尚文

曾木 克徳

高橋菜穂子

田治見美祢子

田中久美子

田上 満也

田畑由貴子

富岡加奈子

南部 雅彦

原 幸治

堀江 芳弘

松村 雅人

松本 好永

宮川世志見

明治地方自治制と条約改正

大阪市街電気鉄道市営主義について

日米開戦における天皇の責任

—軍国天皇制の中の天皇—

明治期の奈良における綿作について

〔東洋史〕

明代・南京について

宋代の士大夫と地域社会の関係

—黄震の救荒政策を中心に—

いわゆる「モンゴル至上主義」の再検討

中国近世における酒の風俗

金世宗時代の社会

—主に尚書省辛執の民族別人数について—

イル・ハン国におけるイクター制について

—ソユルガル、投下との比較を通じて—

唐王朝崩壊期の民衆の反乱

北宋・遼・西夏の三国関係について

—李繼遷の興起と西方進出—

明代の自由刑

—特に屯田について—

虫明 純

村上 進一

山口由紀子

吉澤 直子

今井 睦美

穴山 雄三

荒木 光一

伊藤 明生

井上 京子

大谷 富美

大西 晶子

小川美由紀

木村三千代

明初における皇帝権力と江南の関係について
元時代の白雲宗
桑島 伸岳
田川 恵子

—特に消滅要因に焦点をあてて—
唐代の西域経営と内政問題について
津田啓一郎

—歴代中国王朝の西域経営とその周辺—
後漢末から西晋における社会変化
中瀬 博文

隋唐帝国の形成と北族
中野 美香

唐末藩鎮体制下の地方行政制度について
中村 登

清代の官僚社会について
西尾 恵美

「清議」から「清談」へ
堀 武浩

劉宋政権の成立と義熙土断について
南 宏昌

—東晋貴族制と南北地縁性—
中国のキリスト教会自立運動
宇佐見敏子

—二十世紀初頭のプロテスタント教会について—
台湾二月革命について
鈴木 友子

太平天国革命期に於ける女性の動向
伊達 深幸

英国に対する抵抗派と林則徐の動向の考察
仲谷 和男

五四運動に於ける北方軍閥の政治的動向について
—北京政府の派閥構成—
増田 貴史

清末の企業設立について
—綿紡織業を中心に—
水越 理恵

魯迅
—中国新文学誕生の頃—
山崎美奈子

〔西洋史〕
エジプト古王国時代の王権成立について
植田 紀子

ポエニ戦争
—カルタゴ 商業大国の滅亡—
栗田 賢

古代オリエントの商業について
斎藤 淳子

アレクサンドロス大王の世界征服について
沢邊 理恵

ローマ元首政の成立
—アウグストゥスによるローマ支配の本質—
土田 将

メソポタミアの宗教
—エヌマ・エリシユをめぐる—
宮本万紀子

ビザンツ世界の誕生
—コンスタンティヌス一世の治世を中心に—
村松 薫

古代ギリシア人の生活と音楽
☆ ☆ ☆
渡辺 道夫

イギリスビュリータン革命

—その思想的背景—

式村 智樹

—その支配と精神—
インカ王道とチャスキ

—インカ社会の情報システム—

前田 美和

オシリスの神話と信仰

フェリペ二世の外交政策

石田 恵子

市川 清美

アメリカ合衆国における移民

森田 恭栄

十六・十七世紀の魔女狩りについて

稲村 美貴

—イングランドを中心に—

〔考古学〕

ヴァイキングの活動について

景山 葉子

山陰地方横穴墓論考

岩田 文章

フランス革命における恐怖政治の成立と展開について

北山 丸己

—出雲・伯耆地域を中心として—

レンブラントと一七世紀のオランダ

國富美貴子

古墳から見た琵琶湖水運

奥田 和彦

ナチス・ドイツの形成

栗林 宏至

中世に於ける水田開発

桐山 智義

フランス宗教戦争

鶴田 寛子

—条里制とからめて—

楠浦かおる

☆ ☆ ☆

奴隷制下のアメリカ黒人社会

井上 美来

—低湿地貯蔵穴を中心として—

杉浦 隆支

アメリカにおける教育と不平等

大嶧 陽子

飛鳥白鳳の寺院
—古瓦よりみたる尾張・三河の寺院建立—

中岡 勝

—教育の実質的機会均等を求めて—

小川 彰基

大阪南部における「横口式石櫓」の研究

松本 堅吾

戦間期のソ連外交

小野寺憲一

古代ガラスについて

松本 堅吾

アメリカ独立革命

小野寺憲一

—一八世紀の大陸植民地の自治—

林 由香子

インカ帝国の宗教

林 由香子

受贈雑誌及び図書 (自一九九一年十一月
至一九九二年十一月)

雑誌

愛知大学文学論叢 第九九—一〇一輯

アカデミア (南山大学) 人文・社会科学編 第五四—五六号

アジアアフリカ言語文化研究 (東京外国語大学アジアア

リカ言語文化研究所) 第四二、四三号

アジアフォーラム (大阪経済法科大学アジア研究所) 第

五号

岩手史学研究 (岩手史学会) 第七五号

お茶の水史学 (お茶の水女子大学読史会) 第三五号

大谷大学史学論究 (大谷大学文学部史学科) 第四号

岡崎市史研究 (岡崎市史編纂委員会) 第一四号

鹿大史学 (鹿兒島大学史学地理学考古文化人類学教室)

第三九号

海南史学 (高知海南史学会) 第三〇号

学習院大学史料館紀要 第六号

漢学研究通訊 (漢学研究中心) 第十卷第三、四期、第一

一卷第一、二期

キリスト教史学 (キリスト教史学会) 第四六集

紀尾井史学 (上智大学大学院史学専攻院生会) 第二一号

吉備地方文化研究 (就実女子大学吉備地方文化研究所)

第四号

京都市歴史資料館紀要 第九号

京都橘女子大学研究紀要 第一八号

元史及北方民族史研究集刊 (南京大学歴史系元史研究室)

第一一、一二、一三期

皇学館史学 (皇学館大学史学会) 第六号

神戸大学史学年報 (神戸大学史学研究会) 第七号

斎宮歴史博物館研究紀要 第一号

四天王寺国際仏教大学紀要 短期大学部 第三二号

四天王寺国際仏教大学紀要 文学部 第二四号

史苑 (立教大学史学会) 第五二卷第二号、第五三卷第一

号

史学 (三田史学会) 第六一卷第一・二、三・四号

史観 (早稲田大学史学会) 第一二六、一二七冊

史泉 (関西大学史学・地理学会) 第七五号

史艸 (日本女子大学史学研究会) 第三二号

史窓 (京都女子大学史学会) 第四九号

史叢（日本大学史学会） 第四七、四八号

資料館紀要（京都府立総合資料館） 第二〇号

秋大史学（秋田大学史学会） 第三八号

就実女子大学史学論叢 第六号

上智史学（上智大学史学会） 第三六号

信大史学（信大史学会） 第一六号

神女大史学（神戸女子大学史学会） 第八、九号

人文学報（東京都立大学人文学部） 第二二九号

人文論集（静岡大学人文学部社会科学・人文学科研究報告）

第四二、四三号

スペイン史研究（スペイン史学会） 第七号

住友史料館報 第二三号

西洋史学報（広島大学西洋史研究会） 第一九号

西洋史論叢（早稲田大学西洋史研究会） 第一三三号

聖心女子大学論叢 第七八、七九集

双文（群馬県立文書館） 第九号

創価大学人文論集 第四号

高円史学（高円史学会） 第八号

千葉史学（千葉歴史学会） 第一九、二〇号

近松研究所紀要（園田女子大学近松研究所） 第三号

中央史学（中央史学会） 第一五号

中国水利史研究（中国水利史研究会） 第二一号

津田塾大学国際関係研究所報 第二五号

土浦市立博物館紀要 第三号

敦賀論叢（敦賀女子短期大学紀要） 第六号

帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第三集

東海史学（東海大学史学会） 第二六号

東洋史苑（龍谷大学東洋史学研究会） 第三七、三八号

東洋大学文学部紀要 第四五集 史学科篇一七

東洋文化学科年報（追手門学院大学文学部東洋文化学科）

第六号

栃木史学（国学院大学栃木短期大学史学会） 第六号

寧楽史苑（奈良女子大学史学会） 第三七号

二松（二松学舎大学大学院文学研究科） 第六号

二松学舎大学東洋学研究所集刊 第二二集

二松学舎大学論叢 第三五号

新潟史学（新潟史学会） 第二七、二八号

日本研究（国際日本文化研究センター） 第五、六号

日本思想史研究（東北大学文学部日本思想史研究室） 第

二四号

日本仏教史学（日本仏教史学会） 第二五号

日本文化史研究（帝塚山短期大学日本文化史学会） 第一

五—一七号

年報中世史研究（中世史研究） 第一七号

花園史学（花園大学史学会） 第一二号

白山史学（白山史学会） 第二八号

兵庫教育大学研究紀要 第一—一卷第二分冊二（社会系教育）

兵庫県の歴史（兵庫県史編集専門委員会） 第二八号

弘前大学国史研究（弘前大学国史研究会） 第九一、九二

号

福岡教育大学紀要 第四一号 第二分冊 社会科編

文研会紀要（愛知学院大学院文学研究科文研会） 第

三号

法政史学（法政大学史学会） 第四四号

北大史学（北大史学会） 第三二号

三井文庫論叢 第二五号

御影史学論集（御影史学研究会） 第一七号

民具マンスリー（神奈川大学日本常民文化研究所） 第二

四卷第七—一二号、第二五卷一—一五号

明代史研究（明代史研究会） 第二〇号

モンゴル研究（モンゴル研究会） 一三号

横浜商大論集（横浜商科大学学術研究会） 第二五卷第一・

二号

米沢史学（米沢史学会） 第七号

立教日本史論集（立教大学日本史研究会） 第二、四、五

号

立命館史学（立命館史学会） 第一二、一三号

龍谷史壇（龍谷大学史学会） 第九八号

歴史（東北史学会） 第七八、七九輯

歴史学論集（山梨大学教育学部史学教室） 第三一集

歴史研究（大阪府立大学） 第三〇号

歴史人類（筑波大学歴史・人類学系） 第二〇号

歴史と地理（山川出版社） 第四三四—四五号

図 書

アジアの祭と芸能（学習院大学東洋文化研究所調査研究報

告三七）

革命・革命勸文と改元の研究 佐藤均著（佐藤均著作集刊

行会）

旧植民地における近代化の分析（学習院大学東洋文化研究

所調査研究報告二八)

近世の地図と測量術(京都大学文学部博物館)

公家と儀式(京都大学文学部博物館)

群馬県行政文書件名目録 第五集 明治期宗教編Ⅰ(群馬

県立文書館)

群馬県立文書館収蔵文書目録 10 勢多・前橋地区諸家文

書二(群馬県立文書館)

『慶元条法事類』諸本対校表(稿) 吉田寅編(立正大学

東洋史研究室)

元代史研究文献目録(一九七一—一九八八) 野沢佳美編

(立正大学東洋史研究室)

古文書の魅力 解説(京都大学文学部博物館)

古文書の魅力 出品目録・釈文(京都大学文学部博物館)

齋宮編年史料集 一(齋宮歴史博物館)

桜井史談会の歩み —三十年間の例会など記録(桜井史学

談会)

史料館の歩み四十年(国文学研究資料館史料館)

正倉院文書拾遺(国立歴史民俗博物館)

精華町史 史料篇Ⅰ、Ⅱ

泉屋叢考 第二二輯 正徳・享保の新銀鑄造と銅銀吹分け

(住友史料館)

宋より明清に至る科挙・官僚制とその社会的基盤の研究

研究代表者中嶋敏

吐魯番出土文物研究情報集録 吐魯番出土物研究会編(梅

村垣発行)

動詞アスペクトについてⅠ、Ⅱ(学習院大学東洋文化研究

所調査研究報告二九、三五)

日本美術院百年史 第三卷(日本美術院)

野尻湖クルルタイ記録集成 梅村垣編(編者刊)

豊後国都甲荘の調査(大分県立風土記の丘歴史民俗資料館

報告書第十集)

耶馬台国の民族・地理構造 安台洲著